



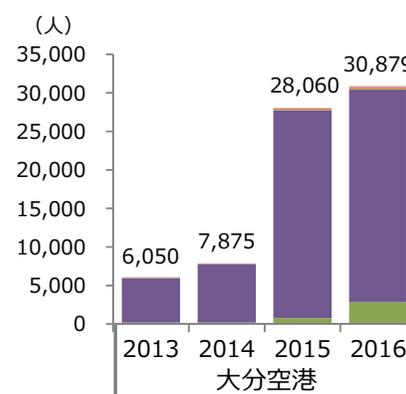
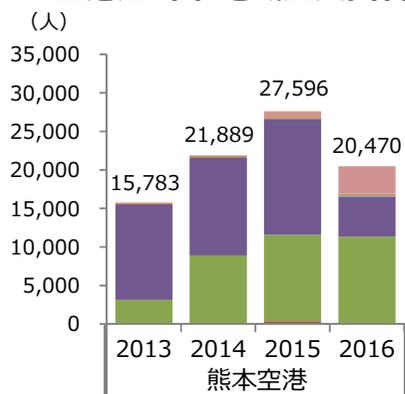
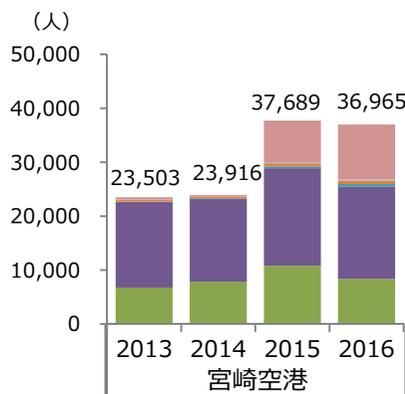
# 「数字で見る宮崎県延岡市(宮崎県北)のインバウンド」



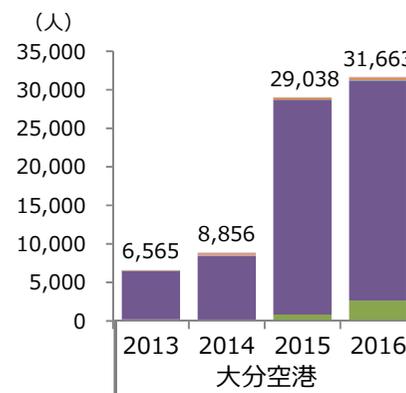
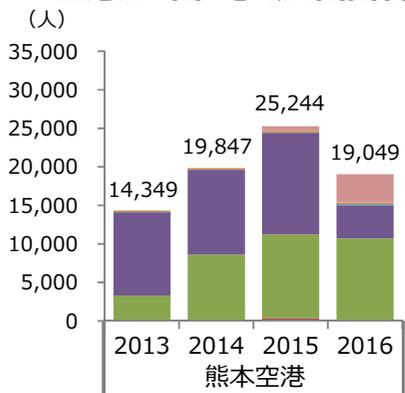
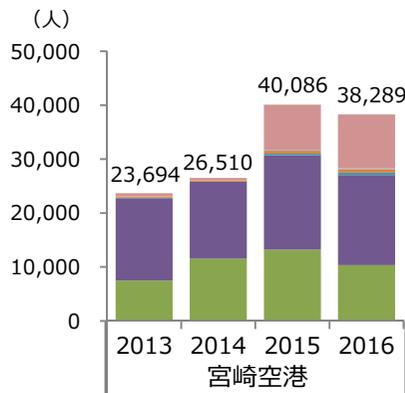
## 空港別／国・地域別訪日旅行者数（1）

- ◆ 延岡(宮崎県北)につながる玄関口としての空港は、近年東アジアへLCC（格安航空会社）が多く就航している地方空港として宮崎空港、熊本空港、大分空港がある。
- ◆ 大分空港はここ4年間一貫して入国者・出国者ともに増加しているが、宮崎・熊本空港は2016年は減少した。
- ◆ 3空港とも韓国の占める割合が高く、特に大分空港はほとんどを占める。次いで台湾が宮崎・熊本空港で多く、特に熊本空港では2016年は韓国を上回った。宮崎空港はその他アジアも増加している。

### 空港別 国・地域別入国者数

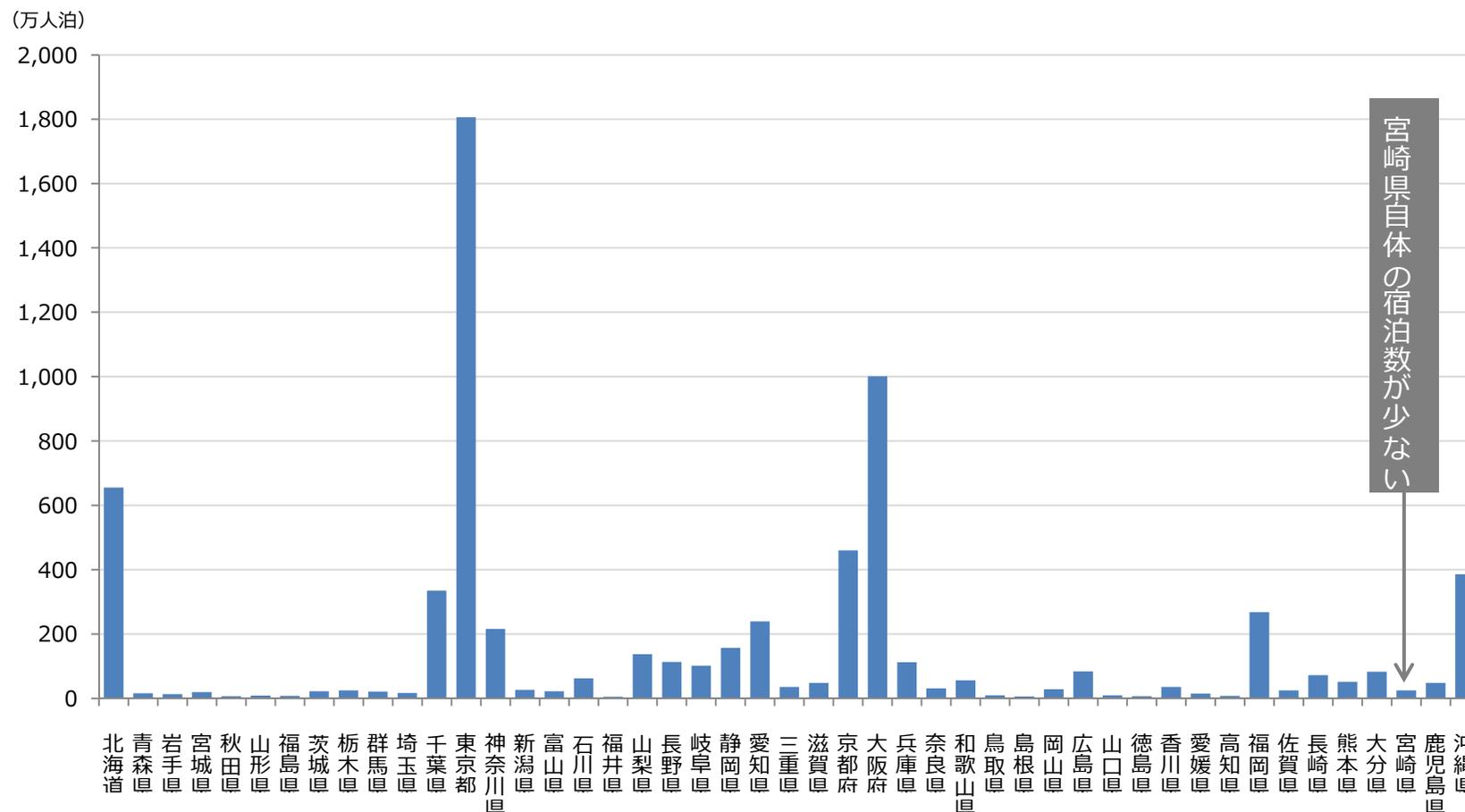


### 空港別 国・地域別出国者数



## 県別外国人宿泊数

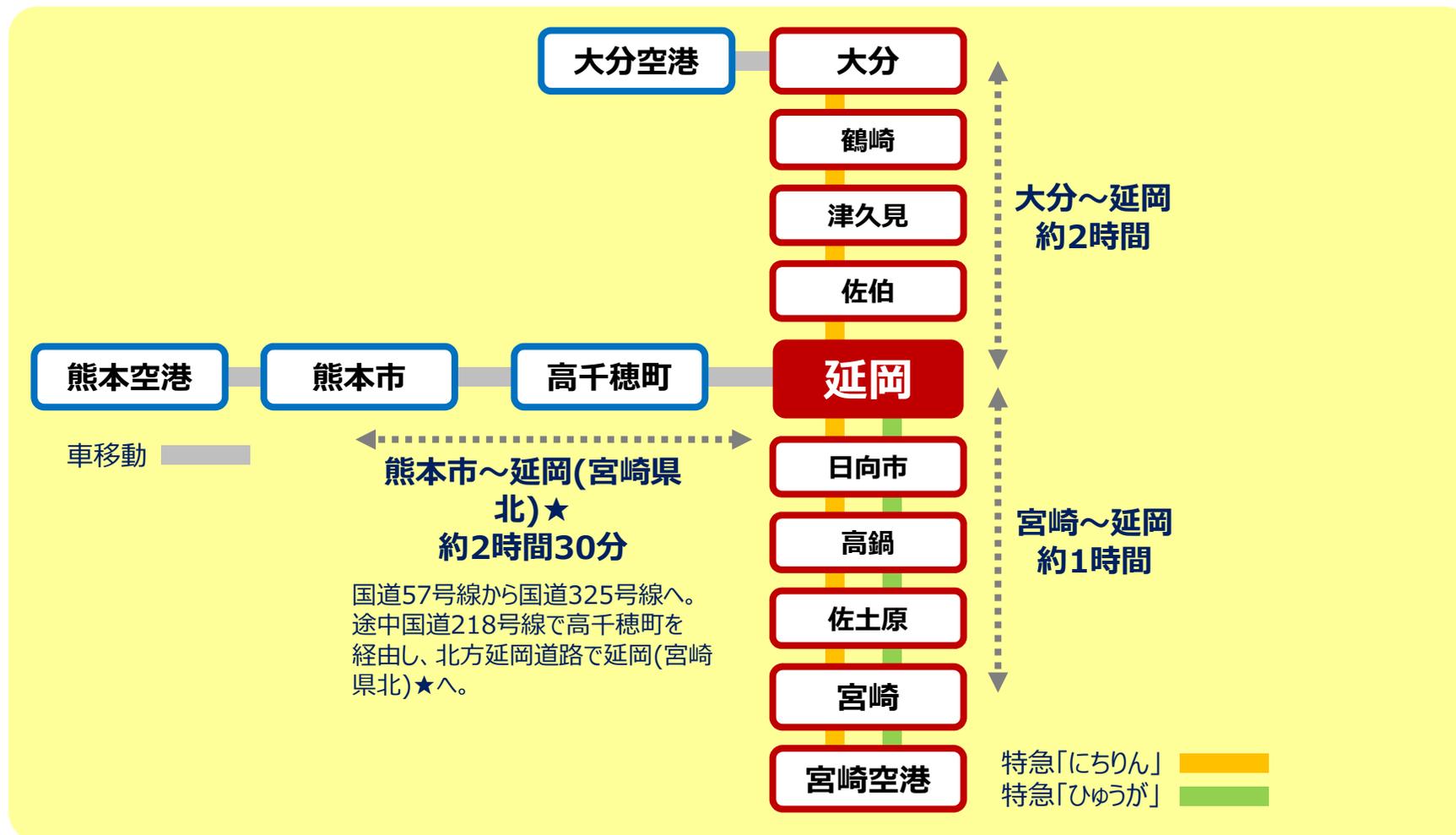
◆ 宮崎県の外国人宿泊数は周辺の大分県、熊本県、鹿児島県を下回り、周辺県からの誘客がポイント。



※2016年 延宿泊者数（1人が2泊した場合2人とカウント）

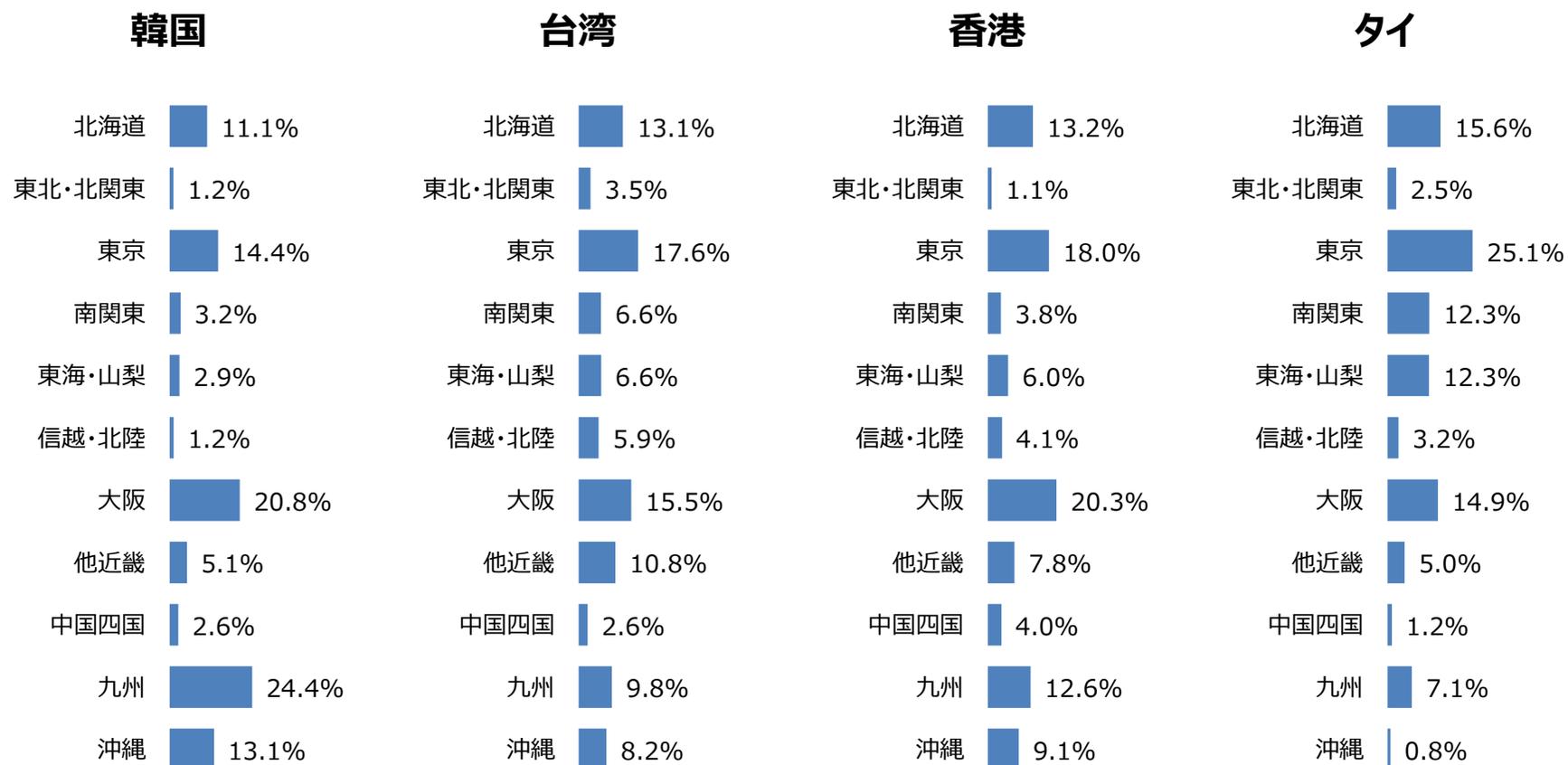
## 延岡(宮崎県北)★の誘客ルート

- ◆ 主なインバウンド客の誘客ルートとしては、宮崎空港⇒宮崎駅⇒延岡駅（特急「にちりん」及び「ひゅうが」で約1時間）、大分空港⇒大分駅⇒延岡駅（特急「にちりん」で約2時間）、熊本空港⇒延岡（車で約2時間半）などが想定される。



## 主な国籍別にみた外国人の宿泊地の分布（1）

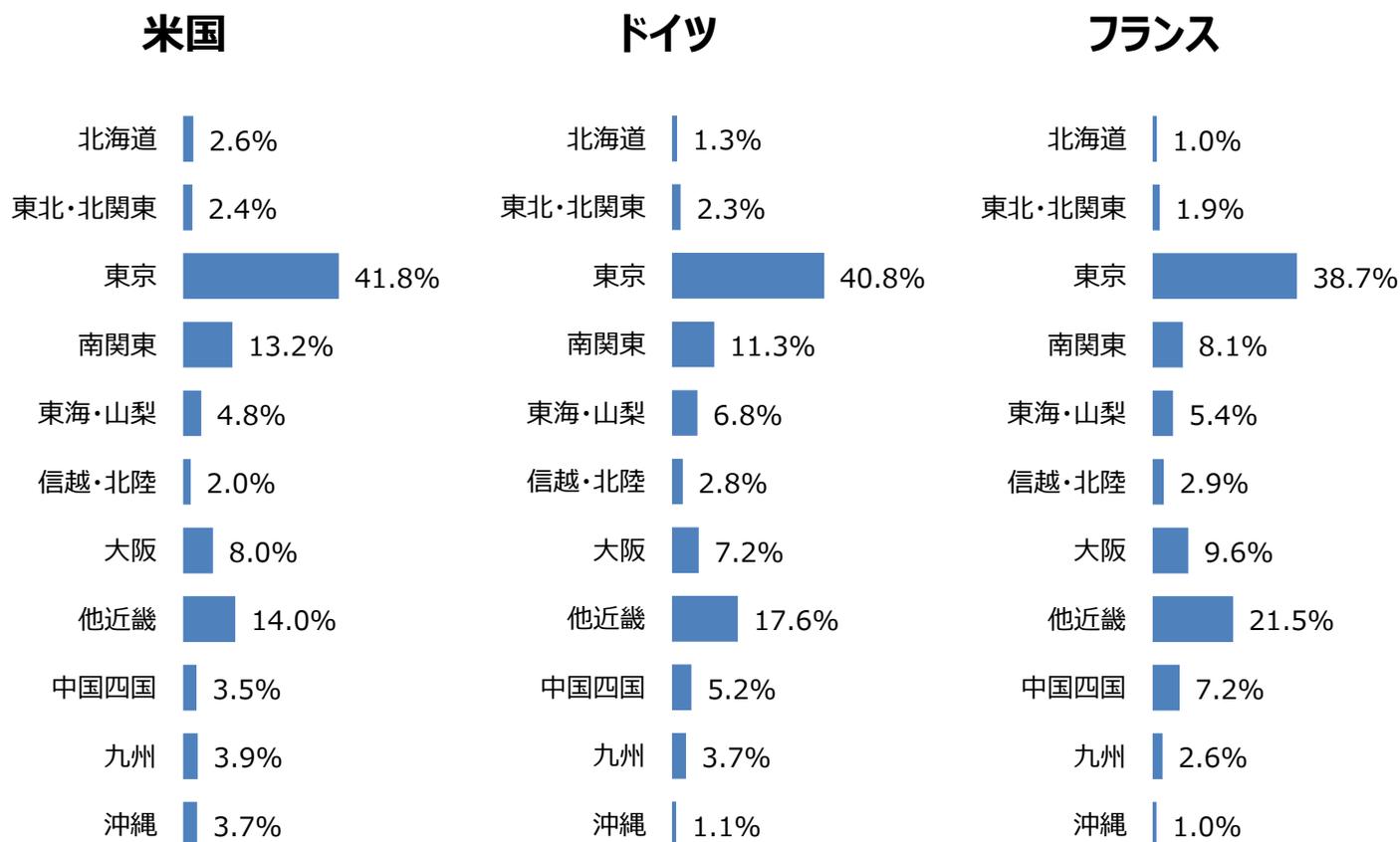
- ◆ 延岡(宮崎県北)に来訪していると考えられる主な国籍の旅行者の宿泊地分布をみると、韓国は西日本に偏在しており、九州が最も多い（近距離性）。台湾と香港は逆に分散傾向が強い（リピーターが多いため）。タイは関東・東海及び北海道、大阪が多く、九州は比較的少ない。



※2015年11月～2016年10月の数値

## 主な国籍別にみた外国人の宿泊地の分布（2）

◆ 米国、ドイツ、フランスはいずれも東京に集中している。

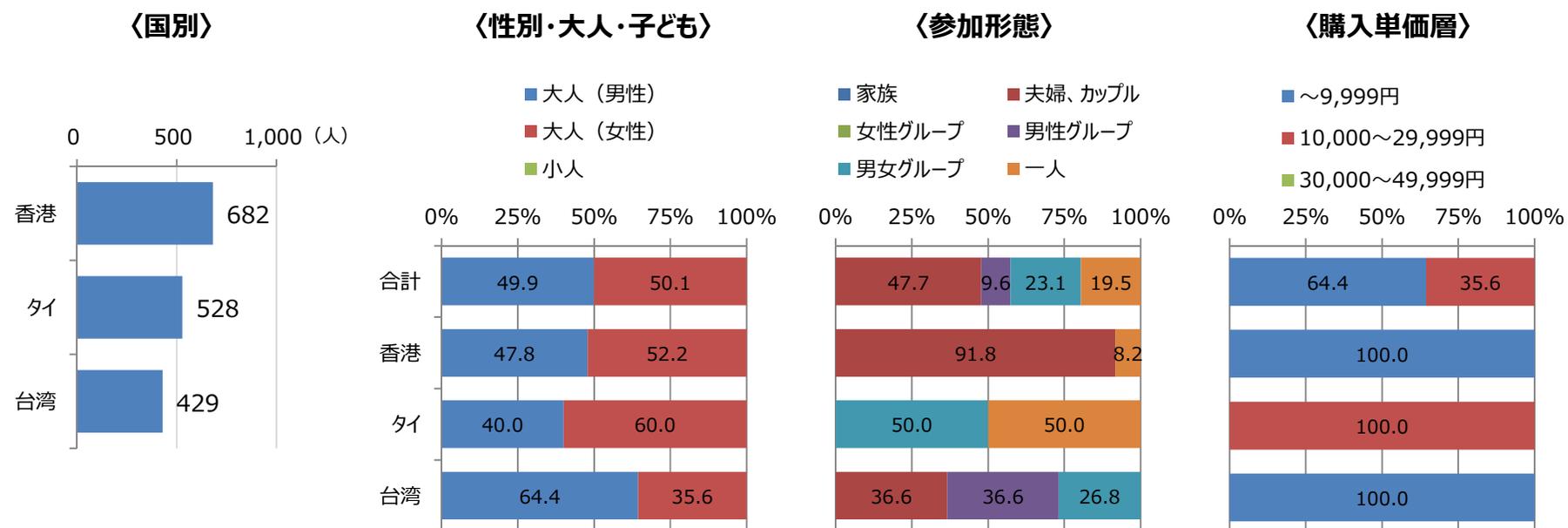


※2015年11月～2016年10月の数値

## 延岡(宮崎県北)★のインバウンド概況

- ◆ 延岡(宮崎県北)に2016年に宿泊した外国人の属性は、香港が682人で最も多く、タイが528人、台湾が429人で続いている。
- ◆ 全体では男女が半々で、夫婦、カップルでの参加が最も多い。
- ◆ 香港は夫婦、カップルが9割以上を占め、タイは男女グループと一人が半々、台湾は夫婦、カップル、男性グループ、男女グループでの参加に別れている。
- ◆ 購入単価は、香港と台湾は全員が1万円未満、タイは全員が1～3万円未満となっている。

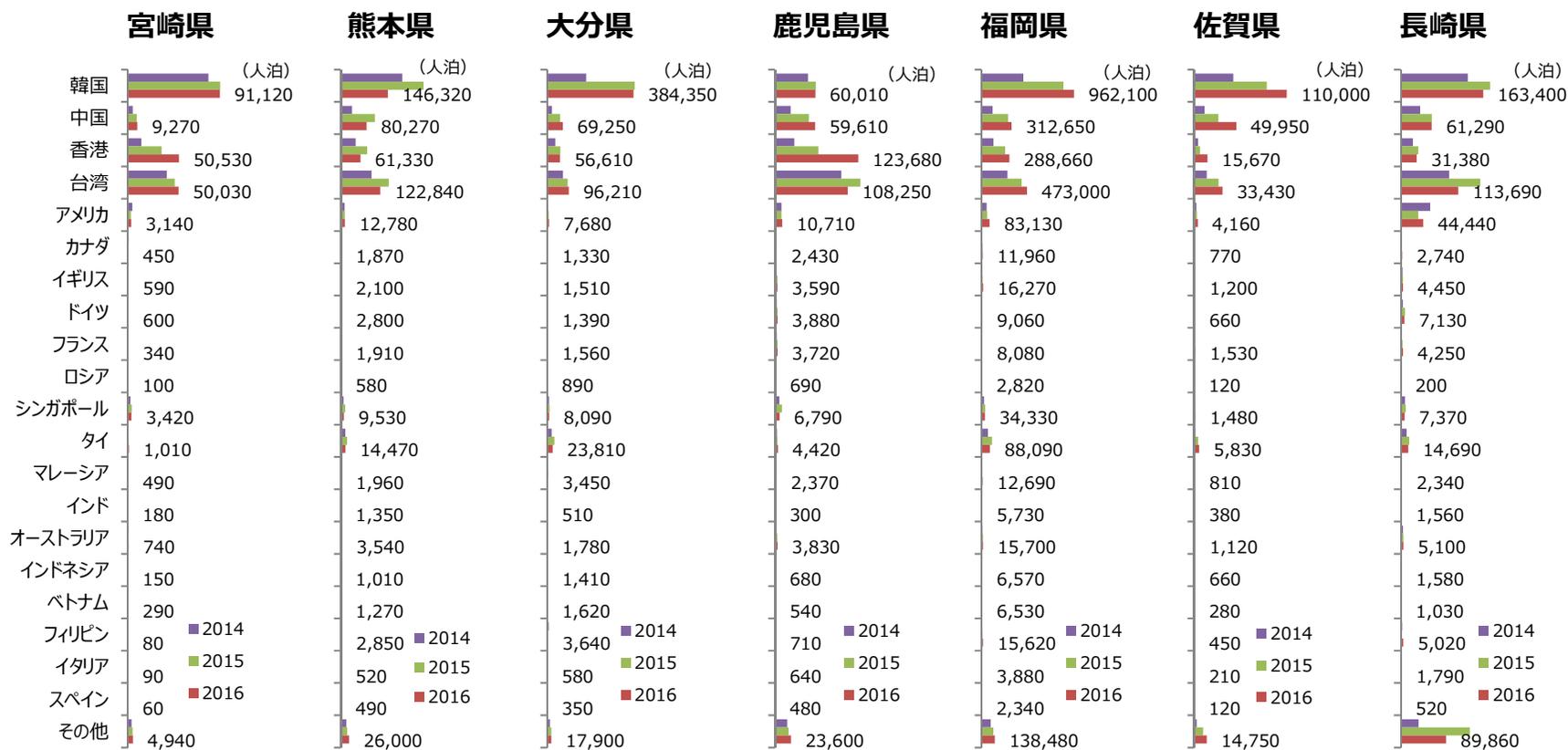
### 2016年宿泊者の属性



## 宮崎県及び九州6県のインバウンド概況（1）

- ◆ 宮崎県内の宿泊施設に2016年に宿泊した外国人の国籍は、韓国が9万1千人泊で最も多く、香港と台湾が5万人泊、中国が9千人泊で続く。
- ◆ 韓国と台湾は過去3年増加している。
- ◆ 九州6県では、鹿児島県は香港、それ以外の県はいずれも韓国が最も多い。

### 国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数

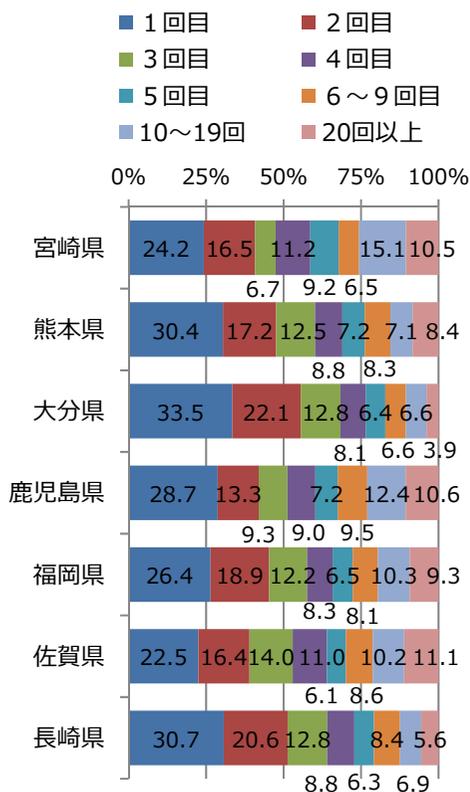


※数値は2016年  
※イタリア、スペインは2015年から追加

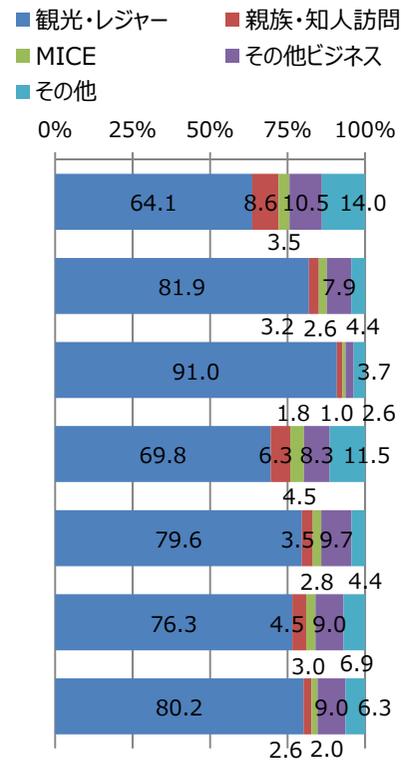
## 宮崎県及び九州6県のインバウンド概況（2）

- ◆ 宮崎県及び九州6県を訪問した外国人の来日回数をみると、大分県、長崎県、熊本県は初来日が3割台と比較的多い。一方、佐賀県や宮崎県は2回目以降のリピーターが多くなっている。
- ◆ 主な来訪目的は、全ての県で「観光・レジャー」が最も多いが、大分県で9割以上を占めるのに対し、宮崎県や鹿児島県は6割台と低く、それ以外の目的が比較的多い。
- ◆ 訪日旅行の手配方法は、全ての県で「個別手配」が最も多いが、熊本県、宮崎県、鹿児島県は「団体ツアー」が3割台と比較的多い。
- ◆ 申込方法は、宮崎県と鹿児島県は「ウェブサイト」が比較的低く、「店頭」での申し込みが多くなっている。

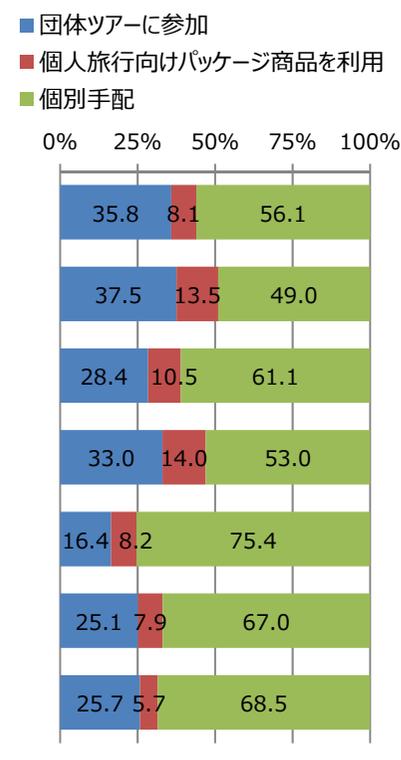
### 日本への来訪回数



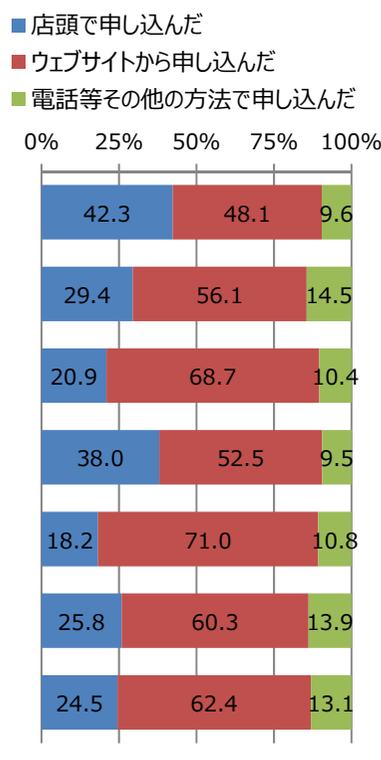
### 主な来訪目的



### 旅行手配方法



### 申込方法

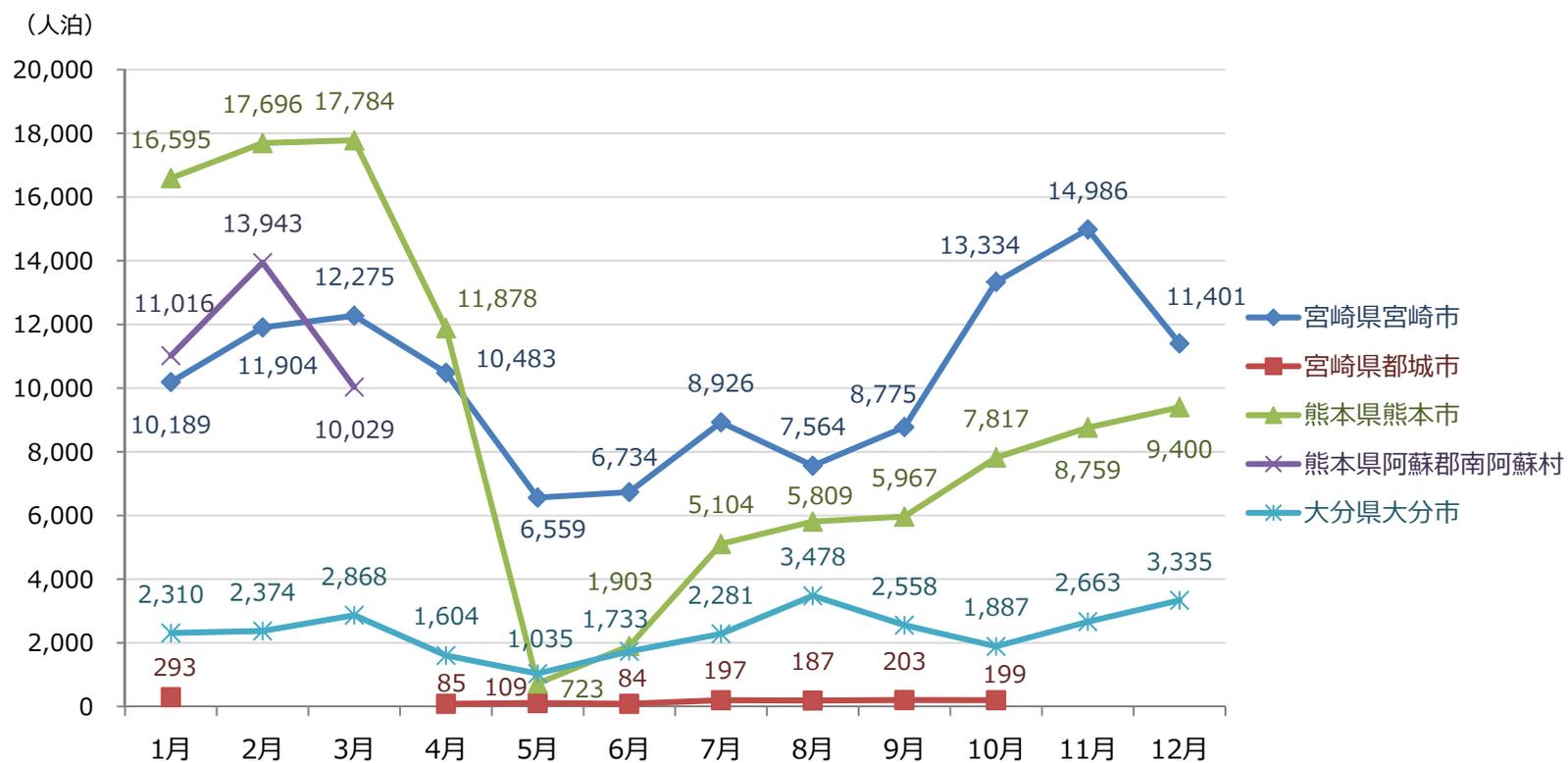


※「MICE」は「インセンティブツアー」「展示会・見本市」「国際会議」「企業ミーティング」、「その他ビジネス」は「研修」「その他ビジネス」、「その他」は「観光・レジャー」「親族・知人訪問」及び左記以外の計

## 各自治体の月別インバウンド概況

- ◆ 外国人宿泊客の月ごとの動向をみると、宮崎市は11月の宿泊者が最も多く、5～9月は比較的少なかった。
- ◆ 熊本市は1～3月まで1万6千人泊を超えていたが、熊本地震の影響で落ち込み、そこから徐々に復調している。
- ◆ 大分市は8・12月が多かった。
- ◆ 多くの市町で5月に大きく落ち込んでいるのは、熊本地震の影響が考えられる。

### 施設所在地別外国人延べ宿泊者数（2016年）



※数値が抜けている月はデータなし